

(科目コード : 8000920084JJ)

【改訂】第31版(2013-03-22)

【科目】生命科学概論

【科目分類】専門科目 【選択・必修の別】特別設定科 【学期・単位数】後期・1単位

【対象学科・専攻】電子情報 4年

【担当教員】宮越 俊一

【授業目標】

地球の環境や歴史との関連の中での生命について理解できる。
エンジニアの素養として、生命のしくみや成り立ちを最近の生命科学の成果もあわせて理解できる。
バイオテクノロジーと他分野や社会とのかかわりについても理解できる。

【教育方針・授業概要】

本科目の総授業時間数は 22.5 時間である。
地球の環境や歴史との関連の中での生命について理解する。

生命のしくみや成り立ちを分子のレベルをはじめ、細胞、個体その他のレベルで学習する。
バイオテクノロジーの基礎と応用、社会的影響について学習する。

【教科書・教材・参考書等】

参考書：生命科学の基礎：野島 博：東京化学同人：4-339-06736-9
参考書：生物科学入門：白木賢太郎：東京化学同人：978-4-8079-0722-9
参考書：生物と無生物のあいだ：福岡伸一：講談社（現代新書）：978-4-06-149891-4

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

大講義室またはそれに準じた大教室で、他学科と合同で授業を行う。
原則として毎回配布するプリントと板書を軸に、必要に応じプロジェクト等を活用して進める。

【メッセージ】

生命の歴史とその巧妙な仕組みを理解するとともに、それを応用した技術について日常の暮らしや社会との関連の中で理解して、何かを感じてほしい。

授業に出席して、レポート等は忘れずに提出すること。授業に関連した質問なら、話の途中でも歓迎する。

【成績評価方法】

[後期]中間試験：45%、期末試験：45%、レポート：10%

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	地球の環境や歴史との関連の中での生命について理解できる。	10 %	試験およびレポート等
2	生命のしくみや成り立ちを分子のレベルをはじめ、細胞、個体その他のレベルで理解できる。	50 %	試験およびレポート等
3	バイオテクノロジーの基礎と応用、日常の生活や社会とのかかわりの中で理解できる。	40 %	試験およびレポート等

【本校の学習・教育目標】

(A-2) 工学や技術の潜在的危険性を理解する

【授業計画】(生命科学概論)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
1	生命科学序説	最近の生命科学に関する話題から、食・健康・環境とバイオ、バイオと他の科学技術		
2~3	生体を構成する分子・細胞の構造と増殖	生体を構成する分子(水、タンパク質、糖質、脂質、核酸)・細胞の構造と増殖		
4~6	生命のしくみ(1)	酵素とATP、おもな代謝経路とエネルギー		
7	生命のしくみ(2)	代謝と調節(恒常性・環境とのかかわり、シグナル伝達)		
8	中間試験			
9~11	生命のしくみ(3)	遺伝とDNA(メンデルからタンパク質合成まで、遺伝子組換え技術の基礎)	野外観察のレポート	
12~13	くらしの中のバイオ	バイオ関連技術(くらしの中のバイオ・バイオと生物産業)		
14~15	生命の生い立ちとひろがり	地球の歴史と生命の進化 生物の多様性、生態系から地球環境まで		
16	定期試験			